

新宮山彦ぐるーぷ第2192回

怒田宿の水場確認と整備など

◇実施日 7月17日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、湯川一郎、濱野兼吉、大江加予

子、生熊千満子、畑理清子、西克、高階美根子、榊本

真仁、梶野照雄、志岐敬、青木宏允、坂田洋子

14名

先日行仙宿から持ち降ろした丸太で水場の降り口にある鳥居風の門を児嶋さんが加工し終わったので、その荷揚げと設置作業をメインに据えていたが、湯川君が連休の間に単独で怒田宿の水場を確認に向かい、玉岡さんの標識も残っていたとの話を思い出し、かねてより怒田宿の水場を一度は訪問したいと考えていたので、本日のメニューに組み込んだ。行仙岳を越えていくのだから、北側の段差補修もついでにやるか、となってしまう。作業が増えると参加者も増えるのだが、作業場所はそんなに広くはないので、同時に大勢で作業、と言う訳にはいかない。今後作業メニュー工夫が必要だ。

午前8時30分、登山口に到着。小森から直接一人で来た児嶋さんはかなり早い時間に来ていたようで、モノレール車庫のパイプ工事をしていた。今回の鳥居風門の作製もそうだが、常に何かの製作に取り組んでいる。その熱意には本当に頭が下がる思いだ。

梶野、志岐、榊本、青木、坂田の5人は少々遅れるので、丸太や碎石などをモノレールに積み込み、児嶋、湯川の2名が同乗してスタートした。

沖崎が登山口で待機していると、梶野車、榊本車が続いて到着し、無人で降りてきたモノレールに4名が乗り込み登りだした。青木、坂田の2名の到着ははまだ30分ほどかかるようだった。



登山口で

水場への門を建てる

行仙岳山頂

モノレール終点からの荷揚げは、先行した皆さんが殆ど持ち上げてくださったようで、残っている物はほんの僅かだった。

前回と前々回に補修した補給路の段差を歩くのは楽しい。今日持ってきた碎石を敷き詰めた。ここはほぼ終了、まだ家に残っている細かい碎石2袋を敷いて完工としたい。

行仙宿に着くと、先行の皆さんは水場降り口の門設置にかかってきた。残しておいた古い柱は、引っ張るだけですっぽりと抜け、穴を掘る必要が無かった、と湯川君から報告があった。

児嶋さんは丸太にホゾを彫って、根元には防腐剤、地上部分にはウレタン塗料と、本格的な構造物を作ってくれたので、組立工事は順調に進み15分ほどで完成した。以前にも増して“鳥居風”になっ

た門を通した風景も少し違って見える立派なものが出来上がった。

女性陣はお堂の掃除や檜、御供の取替をしてくださった。

行仙宿での作業を終了して怒田宿へ向かう。青木、坂田のお二人は11時頃に行仙宿に着くとのことだったので、梶野君に待機してもらった。沖崎は少し遅れて皆さんの後を追った。中間地点まで来ると休憩中の先発隊に追いついた。程なく青木、坂田、梶野の3人も追いついてきた。以前は行仙宿から行仙岳まではワンピッチで、途中で休憩することは無かったが、年のせいかどうしても休憩を挟みなくなる。



段差の補修

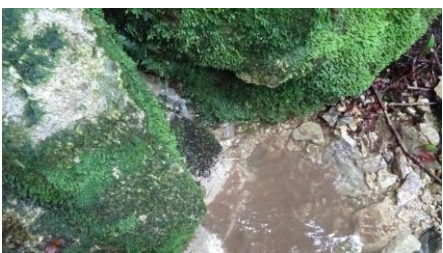
怒田宿水場へ降りる

水場に到着

山頂を越える者と捲き道を行く者に分かれて行仙岳の北側に向かう。北側の捲き道分岐に集合して、段差の補修作業を始める。

今までは分岐からかなり下った怒田宿跡に近い所の補修が多かったが、捲き道分岐に近い場所も、要補修箇所が目立ってきている。行仙岳山頂から怒田宿跡迄、相当の距離と段数があるので、2〜3

回の作業では全てをカバーできない。コツコツと資材を運んで、準備万端で作業を続けたい。昼食を挟んで1時間半、20段位を補修した。デポしていた資材も鉄杭を10数本残すのみとなった。段差の改修作業を終えて怒田宿跡まで降り、水場を目指す。



24年前の標識

きれいな水が流れる

昔の段差材

怒田宿の水場は、先輩諸氏からその存在をお聞きしていたし、最近湯川君が実際に降りて確場所を確認したので、今日訪れる前に行事一覧を調べてみた。

*1997 (H9) 3/25 榊本君が単独で探索、水場を発見

*1997 (H9) 8/28 榊本、小田の2名で道造り開始、ト

ンネル西口迄のルート確認

*1998 (H10) 3/8 玉岡含め9名で道造り

*1998 (H10) 8/30 道造り完工

完工迄の間に14回訪問している。

玉岡さんの行事総括によると

【平成9年】

3月25日、榊本直人さんが怒田宿跡から十津川側に降りて、貴重な水場を発見してくれた。この水場と怒田宿跡を結ぶ道造りから更に白谷トンネル西口迄の新しい登山道の開設に発展して現在進行中である。これは大峰奥駈道にとって極めて価値の高い発見であり整備と言えよう。従来のNTT道からの行仙岳登山は、今後大きく流れを変えることになるし、怒田宿跡に幕営する大学ワンゲル部にも朗報である。

【平成10年】

平成9年からの継続作業でしたが、榊本君を主体とした奮闘で、怒田宿跡から下の水場迄スズタケを刈り払い、杉の間伐材や風倒木を利用して段差材を作り、一冬乾燥させて運び降ろし、287段の段差を設けて僅か5分で水場に到達する道を完成させたのであります。(延日数35日) 次年度は水場から白谷トンネル西口への登山道を整備することにより大峰登山に更に大きく貢献することになりましょう。

全員が怒田宿跡に集まり、昔の水場径の痕跡を探したがそれらしいものは見つからず、湯川君を先頭に60mほど北の鞍部の広い沢筋を西へ下った。少し下ると踏み跡らしいものが見られる様になった。踏み跡をたどると北側の尾根から伸びていた。沢筋ではあるが傾斜はゆるく、ガレ場や倒木も無く比較的歩きやすい。ただ殆ど歩かれていないので、柔らかく注意が必要だ。

先行者から「着いたぞ」と声が聞こえた。奥駈道を離れて6〜7分しか経っていない。距離にすると行仙宿水場の半分弱、平治宿の水

場より少し短いくらいだ。



古いトラロープも

水場への標識

テープも付ける

岩が目立つようになった谷筋の行仙岳側に一面苔に覆われた大きな岩があり、その岩の間に水が流れ落ちていく。下のくぼみに溜まっている水も透明で水温も低い。榊本君が一年半で14回作業に來たが、その間水量はほとんど変化なく、涸れることは無かった。と話してくれた。岩に付いた苔のあちこちから水が滴り落ち、全体の水量はかなり多そうだ。また落石がないようで、水場下に小石が少なく、苔にも剥がれた跡は見られなかった。行仙岳の山体に溜まった水がここに染み出しているようだ。

24年前の玉岡さんの筆になる「怒田の水場」の標識も残っていた。15分ほど滞在して引き返す。24年前に造ったルートは、今日下ったルートではないので、昔のルートを探すべく湯川、榊本、梶野の3名が少し南側を登った。湯川君が途中で段差の痕跡を発見、古いトラロープも見つかり昔のルートが判ってきた。

3名を除く11名は来たルートを引き返した。青木君は小さいバチ
ヅルであちこちを削りながら、志岐、西のお二人は要所にピンクの
リボンを付けながら奥駆道まで登った。



行仙岳捲き道分岐

本日の参加者

怒田宿水場の位置

怒田宿跡で待っていると3人が戻ってきた。やはり昔のルートは
怒田宿跡から降りていたようで、腐った木杭や栈木、村吉さん作成
の看板もあったそうだ。昔のルートは水場迄ほぼ直線で尾根筋を降
りているようだが、段差を必要とする急傾斜が多いので、今日降り
たルートを使う方が若干遠回りになるが安全性が高いという結論
に至った。

怒田宿の水場整備を終えて引き返す。途中の段差補修現場
にデポしていたザックや道具類を持って行仙宿に戻った。

今日は念願の怒田宿の水場を確認できた。今後これをどうするか、
どう生かすかが課題として残るが、充実した一日になった。

榎本君も24年ぶりの訪問で、当時の苦労も思い出したようだ。ト

ンネル西口から登ってみる、との話もあった。
皆さんありがとう。

この日、青木君から山彦のネーム入り日本手ぬぐい120枚を寄
贈いただいた。
(記：沖崎)

行動タイム

08：30 補給路登山口↓09：30 行仙宿 10：15↓11：06 行仙岳↓12：
11↓12：31 怒田宿の水場↓13：15 怒田宿跡↓14：35 行仙宿↓15：
10 補給路登山口